

# 令和3年度 第1回 藤沢市地域福祉計画推進委員会

## 議 事 要 旨

### I. 開催概要

1. 日 時 2021年(令和3年)7月2日(金)10時～11時45分

2. 会 場 藤沢市役所分庁舎2階 福祉拠点活動室

### 3. 出席者

(1) 委員=20名

・会場出席者

石渡 和実、松永 文和、東田 正喜、小池 信幸、宮久 雪代、  
山口 燿子、南部 久子、椎野 幸一、川原田 武、伊原 敦、  
末吉 育子、森 もと江、越川 玲子、松沢 邦芳

・オンライン出席者

戸高 洋充、木村 依子、越智 明美、市川 勤、川辺 克郎、江崎 康子

・欠席者

浅野 朝子

(2) 事務局=11名

・福祉部：池田部長

・地域共生社会推進室：玉井室長、片山主幹、浅野主幹、山中室長補佐、  
石田主査、佐藤主査、棚澤、高松

・藤沢市社会福祉協議会：村上次長、平澤課長補佐

(3) 傍聴者=0人

### 4. 議 題

1. 開 会

2. 議 題

(1) 今年度のスケジュールについて

(2) 藤沢市地域福祉計画2026・藤沢市地域福祉活動計画について

①藤沢市地域福祉計画2026について

②藤沢市地域福祉活動計画について

(3) 藤沢市地域福祉計画の推進について

①地域福祉に関するアンケート調査・団体ヒアリングについて

②計画の成果目標について

3. その他

4. 閉会

## II. 会議の概要（議事要旨）

### 1. 開会

福祉部池田部長の挨拶の後、地域共生社会推進室玉井室長より以下の事務連絡があった。

【事務連絡】・資料確認

・民生委員児童委員の交代

石井、堀口各委員から末吉、森各委員へ交代

・事務局紹介

事務連絡後、石渡委員長より挨拶があり議事に入った。

### 2. 議題

#### (1) 今年度のスケジュールについて

《資料1に基づいて事務局 榎澤より説明》

○石渡委員長

皆様、説明のあった日程で予定を入れておいていただきたい。また、このスケジュールに関して意見等はあるか。

→質疑なし

#### (2) 藤沢市地域福祉計画2026・藤沢市地域福祉活動計画について

##### ①藤沢市地域福祉計画2026について

《冊子本編『藤沢市地域福祉計画2026』に基づいて事務局 榎澤より説明》

○石渡委員長

今後、藤沢市地域福祉計画を実際に進めていくにあたって意見や確認しておきたい事項はあるか。

○市川委員

我々が議論を重ねて作成した計画であるが、一つ確認させていただきたい。74ページ記載の「自治会・町内会加入のきっかけづくり」に関して、年代別の加入率が記載されている。これはアンケートの結果であり、実態との乖離はないのか。今年度から自治会連合会の会長が集まる会議で自治会加入率の問題について考えていくが、そのベースとなるのは行政の数字である。こういった情報も皆様と共有していきたい。

○石渡委員長

アンケート結果と実態とは多少相違があるのではないかという意見である。行政側で実際の加入率は把握していると思うが、事務局より補足をお願いしたい。

○事務局 榎澤

本件は4,000人中の2,000人に回答をいただいたアンケート調査の結果である。加入率の実態は、アンケート結果と大きな乖離はなく、70%前半である。自治会加入率は地域福祉を推進する上で自治会活動の大きな基盤になると捉えており、情報発信や助け合いの部分においても重要となる。自治会連合会の会議で自治会加入率に関する協議が行われた際には、是非、本会議でも情報共有させていただきたい。

○事務局 片山主幹

13地区における自治会加入率の分析により、一番加入率が高い自治会では約94%、一番加入率が低い自治会では50%を下回っている状況がわかっている。地区毎に特性があり、それが加入率に影響していると感じている。

○石渡委員長

市川委員から大事な指摘をいただいた。次は、社会福祉協議会の地域福祉活動計画について説明をお願いしたい。

## **(2) 藤沢市地域福祉計画2026・藤沢市地域福祉活動計画について**

### **②藤沢市地域福祉活動計画について**

○伊原委員

社協では、令和3年6月23日に第1回策定委員会を開催し、第4次地域福祉活動計画の策定を始めた。この構成員には、市の地域福祉計画と兼任されている委員もいる。市の地域福祉計画は理念計画であると説明があったが、地域福祉活動計画は、地域福祉の推進のために、地域の福祉生活課題に対して地域の様々な方々が主体的に取り組むための指針という位置づけである。第1回策定委員会では、市の目指すべき将来像、目標、施策の方向性を共有させていただいた。地域毎に抱えている課題等は異なっていると捉えており、地域における課題は何か、課題に対してどのような支援をしていくべきなのかを、地域の皆様と考えて進めていきたい。最終的には、地域毎にどのような活動を進めていくのか、社協として支援ができるのかが第4次地域福祉活動計画策定のメインになると考えている。

○石渡委員長

社会福祉協議会が作成している地域福祉活動計画について説明をいただいた。

## **(3) 藤沢市地域福祉計画の推進について**

## ①地域福祉に関するアンケート調査・団体ヒアリングについて

《資料2、資料3、資料4に基づいて、事務局 榎澤より説明》

### ○石渡委員長

非常に興味深い分析であった。椎野委員作成の参考資料にも感謝したい。椎野委員、補足説明はあるか。

### ○椎野委員

「個人情報」について補足説明をしたい。何かを協議すると、個人情報の取り扱いが問題になる。防災関連の避難行動要支援者の名簿に関して、整備できているが情報提供を検討する段階になると、個人情報の取り扱いに関する声があがり共有できない状況である。以前、ある地区では、名簿を活用して地図落としを行い、どこに要支援者がいるのか明確に把握することができた。有事の際の安否確認など、即座に把握する必要があると思っているが、自治会長が代わるたびに、個人情報の取り扱いが問題になる。個人情報が漏洩しない仕組みを作るなど、個人情報を共有するにはどうしたら良いかを自治体で十分議論していただきたい。責任に拘って一人も残さず助けることに繋がらない。

次は自治会について、善行地区の自治会加入率は約50%、御所見地区の自治会加入率は約70%を下回っている。不動産業者が戸建てを取引する際、購入者に対して自治会の加入を勧めているが、ただ勧めても入るわけがない。自治会長や町内会長が、熱意をもって、住民同士の助け合いの重要性を伝えないと解決しない。

最後は障がい者について、障がい者本人も積極的に取り組む姿勢を持ってほしい。支援する側だけが一生懸命なことが多いと感じている。また、今年度から災害対策基本法が改正され、個別避難計画を作成しなければいけない。一緒に避難計画を確認して、手取り足取り心を通じてこの計画を作成する必要がある。避難行動要支援者に対し、この取り組みを強化していくということを伝えていきたい。

### ○石渡委員長

椎野委員作成の参考資料は、大事な指摘を上手く纏めていただいているので、皆様熟読していただきたい。事務局からはアンケートやヒアリングの結果をどう活用するかということに関して説明をいただいた。意見はあるか。

### ○松沢委員

資料2に記載がある自治会町内会に加入していない理由に関して、市のHPを見ることで自治会の働きが把握できるからという若い世代もいる。コロナ禍で会議もITを活用したオンライン形式でも行っている。世の中でIT化を推進しており、10年後、20年後を考えると、今後の地域福祉計画の見直しの際などには、自治会の加入率の問題や会合もオンラインで行うといった時代に沿った内容を取り入れてはどうか。また、コロナのワクチン接種に関して、市のHPから集団接種の予約をするように言われても、電話も通じず、予約方法もわからずに困っている高齢者が多くいる。

若い世代がフォローするなど互助、共助が必要である。時代に沿った形で手段を考えていくと良いのではないか。

#### ○石渡委員長

若い方たちに地域に関心を持っていただくため、ITを活用した情報提供の方法について、引き続きより深く考えていくと良いのではないか。

#### ○末吉委員

民生委員も個人情報の取り扱いには慎重になっているが、市の弁護士から、命にかかわることについては個人情報の取り扱いをそこまで重視する必要はないという回答をもらっている。私の町内会では、副支部長や民生委員などが災害に備え、要支援の方のカード作成のため、1軒ずつ訪問している。こういった活動が、町内会の繋がりを密接にしていくと考えている。何もせずに町内会に入るよう訴えても促進にならない。災害時に慌てないように、日頃から近隣とコミュニケーションを取り、有事の際には一人暮らしの方のもとへ皆で駆けつける町内会を目指したい。町内会の必要性を地域住民に説明していくことが重要であると思っている。個人情報の問題があげられるが、一人暮らしの高齢者を皆で助ける連帯感を持つことが地域の活動ではないか。運動会も非常に多く参加していただいております、皆が率先して動く町内会でなければいけないというのが私の考えである。

また、地区社協が行き詰っており、役員会において地区社協が今後どのように地域活動したら良いのかという話題が出る。市が地区社協の役員会に出席していただくなどして、今後の活動に関するアドバイスをいただきたい。

#### ○石渡委員長

個人情報の取り扱いの難しさを感じる。地区社協や町内会に市がどのように関わっていくのかということについて大事な指摘をいただいた。アンケート関係について他に意見はあるか。

#### ○松永委員

資料2と3に関して、非常に丁寧に纏められていると感じた。地域福祉計画は目的や方向性を示す理念計画であるが、実際の活動にどう結び付けていくのかが今後の大きなテーマになるのではないか。コロナ禍で、居場所が必要なのに集まることができないといった、求められていることが叶えられないことがあると感じている。しかし、それと同時にコロナ禍だからこそできることがあるのではないかというポジティブな考えも生まれている。英語で言うとcanやwillという言い方になる。求められていることに対応していくだけではなく、それも視野に入れながら地域の中でどう生きたいか、やりたいことやできることを考えていかなければならない。先ほど、自治会や地区社協の話があったが、私たちは、何を目的にその地域に住み続けているのかも考えていく必要があると感じた。これまでの行政計画では、数値化して評価する

という流れが中心であったと思うが、canやwillの部分に目を向けていくことが、新しい地域福祉計画の方向性、在り方になると感じている。これほど地区の分析をされているため、これを更に繋げて地区での活用が進めば良いと思っている。

#### ○石渡委員長

困りごとなどのニーズだけでなく前向きなやりたいこと、末吉委員から運動会の話もあったが、そういったことが若い人を巻き込むことになるのではないかと感じた。

#### ○宮久委員

障がい者の困難さなどは、一般の人からイメージがされにくい。障がい者と共生社会に関する内容のラジオを聞いたので紹介したい。障がい者は制度に守られていて、制度に守られていては共生社会が進まないという話があり、共感した。障がい者は、様々な困難を抱えているため制度を活用しないと生きていくことができないのだが、それが地域との繋がりを構築するための壁となっていると聞き、障がい者が活躍できる場の創造が重要であると思った。また、流通経済大学の先生の話聞き、障がい者が活躍できる場面を地域の人と一緒に作っていくという素晴らしさを感じることができた。今回の地域福祉計画の表紙に、社会に出にくい人の参加が描かれており、大変素晴らしいと感じた。現実には、障がい者のことを好まない人がいるが、そういった人とは対話の場をしっかりと作っていかなければいけないと思っている。障がい者施設の地域運営に関して、世界では脱施設が進められている。それは重度の人でも地域で暮らせるということだが、当人の意思決定を尊重できるだけの時間が与えられていない。結果的にそのような社会構造の中では重度の障がい者は追いやられていく。私は、障がい者が活躍できて地域の人たちと手を繋げるような藤沢市にしたい。その制度設計も含めて行政と話し合いを進めていきたいと思い、地域の人たちと予備活動をしている。繋がっていくということを諦めないで決意した次第である。

#### ○石渡委員長

こういった決意を聞くことが地域を変えていくことに繋がると感じる。私も重度で地域生活をしている方を知っているが、地域で暮らすことにより笑顔が非常に多くなるなど様々な可能性を感じた。障がい者ができることややりたいことを活かして、活躍できる場面を増やすことができれば地域は変わっていくと感じている。

### **(3) 藤沢市地域福祉計画の推進について**

#### **②計画の成果目標について**

《資料5に基づいて、事務局 榎澤より説明》

#### ○石渡委員長

アンケートやヒアリングの結果について説明をいただいたが、成果目標の数値が市民の活動として具体的に身近なレベルに落とし込んでいる資料であると感じた。これらを現実にするために、地域で何ができるのかという観点で意見や質問はあるか。

#### ○椎野委員

認知症サポーター数の累計、地域の縁側の開設などの特性がはっきりしているのは良いと思う。アンケートの結果として出されている数値があるが、アンケート調査は、不特定多数を対象にしているが、本当に関心がある人や関わっている人が回答しているため、結果にはばらつきが生じていると感じている。それが本当に成果に結びついた数値なのか疑問である。2年間や3年間、同じ人を対象にアンケートを実施して、その結果評価が良くなったという見方をしないと、アンケートの結果は信頼できかねる。それよりも皆様が、やったことに対して良くなったと感じることが重要であり、それが評価に繋がるのではないか。やったことがどうだったのかということをしかりと知らしめないといけない。この会議体では、結果に対しての改善点などを話し合い、次に繋げていくことが重要なのではないか。

#### ○石渡委員長

鋭い指摘をいただいた。アンケートの難しさだと感じる。

#### ○事務局 榊澤

理念計画という特性上、事業では測れない部分が多々ある。市民の考えや感じ方を一つの尺度と捉え、今回の目標値の設定をさせていただいている。認知症サポーター数について、これはあくまで一つの切り口という記載である。例えば、認知症の理解が進めば、認知症の方が安心して暮らせることに加え、障がい者や様々な困りごとを抱えている方々にも相応しい対応ができ、皆が安心して暮らせるまちづくりにも繋がると捉えている。地域の縁側は、一つのサロン機能だけではなく相談などの様々な機能を持っているため、今回は具体的な設定をさせていただいた。また、アンケート調査の特性に関して、ご指摘の通り、アンケート調査の対象者は毎回変わってしまう。そのため、経年の変化に対する精度には疑問が生じると思う。一方で我々が目指していく地域福祉の推進は、市民誰もがという趣旨が重要な比率を占めているため、同じ人だけではなく様々な市民の考えや感じ方を確認できればという考えがある。しかし、3年後の計画は、場合によっては成果目標の考え方が変わってくる可能性もある。そういったことも踏まえて、取り組みや計画への反映を考えさせていただきたい。

#### ○椎野委員

記載されている事例は全て行政の取り組みであり、市民の取り組みの記載がない。市民や市民団体の取り組みには、評価できることが多々ある。市民の取り組みを事例に載せていただきたい。これを見た人は、市民は必要ないと感じてしまう。

#### ○事務局 榊澤

ご指摘の通り、現状は行政の事例の記載のため、そういった思いをさせてしまうかもしれない。3年前に地域や行政の取り組みを纏めたことがあるため、その情報を活

用させていただき修正を図りたい。

○石渡委員長

他に意見等はあるか。

○松永委員

地域福祉には全体的に数値化できないことが多いという前提を認識していただきたい。そして、行政だけでは支援できないことが増えてきていること、行政だけでやっていたものなのかという問題や地域の中に様々な活動があり相互に混ざり合っているという現実がある。評価に関して、数値化できるものは数値化できる。認知症サポーターに関して、認知症サポーターが増えると認知症の理解が深まるかということも必ずしもそうではない。それは切り口として、一つの例として挙げているということを説明する必要がある。地域福祉計画では、課題をどう解決したのか、課題にどう向き合ったのかというプロセスの評価にも目を向けなければいけない。これまでは、プロセスの評価が重視されていなかったと感じるが、どのような関係が地域の中で築かれていったのかというプロセスに目を向けることにより、その事業の評価は変わる。数値目標は数値目標として掲げ、地域の中で大切にしている取り組みや支えあいの内容を事例で紹介する。その事例の実施主体は問題ではなく、そういう活動が生まれてきているということが重要である。

○石渡委員長

プロセスの評価も含めて、評価方法を考えていかななくてはいけない。

○山口委員

地域福祉計画に方向性や課題が書かれていたが、誰がそれに取り組むのかという疑問を感じた。また、各地区を回って説明会を開いていると聞いたが、説明会の対象はどのような団体なのか。善行地区の自治会や郷土づくり推進会議に対して説明会の声は掛かっていない。計画に対する成果を出すことを目指すのだけではなく周知も必要だと感じている。

○南部委員

今後どうなるのか、これで終わってしまうのかという心配がある。事務局から、地域福祉計画は声をかけていただければ配るという説明があったのだが、行政側から、地域での検討に活用するよう市民センター、公民館、地区の団体に配架していただきたい。資料としていただければ対応もできる。行政から手引きしていただければもう少し活動できるのではないかと考えている。

○事務局 糊澤

この地域福祉計画策定の説明に関して、13地区における説明会の必要性を感じて

いるが、コロナ禍で難しい状況にあるため、団体を訪問し説明している状況である。今年度中に各地区において説明の機会をいただければと考えている。最終的には、13地区の資料の正確ではない部分を修正して、市民センターや公民館、様々な団体への共有を図っていきたい。また、南部委員からのご指摘に関しては、本日出席の委員の皆様に対して、お声掛けいただければ追加で配布するという意味で話をさせていただいた。説明不足であった。

#### ○市川委員

具定例に関して、どのように数値化できるのかを考えていただき、数値目標をあげていただきたい。VR機器を用いた認知症体験を例に挙げると、行政が具体的にどういったスケジュールでどのような活動を予定しているのかということである。その活動により民間への委託という話になるかもしれない。ここに記載があることを数値化できるかできないかという視点で考え、事業にどう活かしていくのか、そこまで考えてPlanからDoの段階に落とし込んでいって、Checkのデータを集められるシステムを作っていくと良いのではないか。将来的にそれにより単年度の実績として行政と民間が融合したデータが取得できるのではないか。

#### ○石渡委員長

他の方、意見はあるか。

#### ○東田委員

老人クラブも様々なボランティアや見守りを行っているが、担い手が減ってきている。若い方の参加希望があっても、対象の地区に受け皿がなく入ることができない状況も発生している。また、老人会、自治会、町内会の競合があり、協調性に欠けていると感じている。民生委員の顔も見えず、何をしているのかわからないのが現状である。また、郷土づくり推進会議では、鶴沼地区でアンケート調査を行い、詳しく分析した。町を良くしたいと思っている住民が多くいた。半面、相談場所が少ないという意見もあった。地区によってはこういったアンケート調査を行い、分析もしているということを紹介したかった。

#### ○石渡委員長

民生委員の方は非常に多くの活動をしている。更なる宣伝が必要であると感じた。また、地域の様々な活動をどう繋げていくのかが地域福祉の重要な部分だと思う。

### 3. その他

次回開催日：令和3年9月3日 本庁舎7階会議室

### 4. 閉会

以上